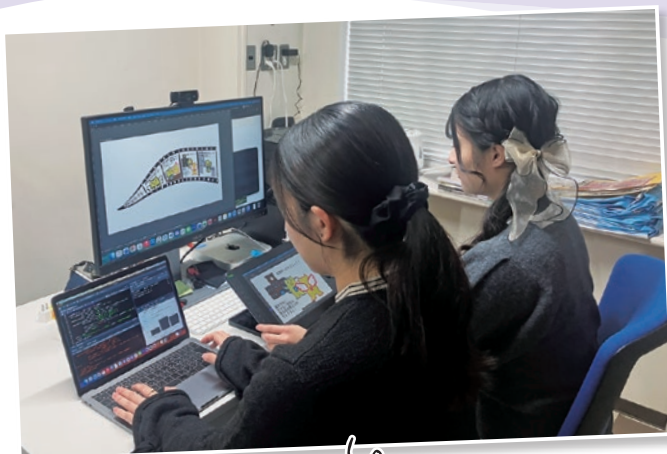


# 吹田市に住む新有権者に向けた投票啓発活動

#投票参加  
#選挙  
#吹田市



メッセージカードの作成と検証

## DATA

- 主な連携先・メンバー  
吹田市選挙管理委員会事務局
- 活動地域  
大阪府吹田市
- 活動期間  
2024年度～2025年度
- 活動資金  
自己資金

## 目的

吹田市の投票率向上を目指し、18歳の新有権者に効果的な投票啓発のあり方を検討した。具体的には、吹田市が配布する「新有権者メッセージカード」のデザインを提案した。

## 連携に至る経緯

法学部で学ぶ政治学の知識を活かした実践的なプロジェクトにゼミで取り組みたいと考え、担当教員が吹田市選挙管理委員会事務局に連携を提案した。先方から、参院選に向けた啓発事業を進めており、学生の声を取り入れたい旨の回答を得て、実施に至った。

## 活動内容

参院選が2025年7月に施行される予定であったことから、本事業はその約1年前から活動を開始した。まず、吹田市がこれまで新有権者に配布してきたメッセージカードをご提供いただき、どの点に改善の余地があるのかについて、国内外の投票啓発研究を参照しながらゼミ内で検討を行った。そして、①吹田市では投票に行く人が多数派であること、②地元コミュニティである吹田市と新有権者自身とのつながり、③家族や友人などとの政治的会話を促すことの三点を強調した

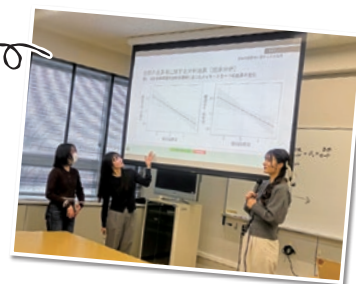
メッセージ案を作成し、カードに掲載することを提案した。また、新有権者に手に取ってもらいやすくするため、カードのデザイン変更案についても吹田市選挙管理委員会事務局に提示した。さらに、メッセージカードの内容やデザインが投票行動に与える影響を検証するため、新有権者を対象とした意識調査を併せて実施するとともに、参院選における実際の投票率の変化についても検証した。



ゼミ生集合写真



新有権者メッセージカード



研究成果の発表風景

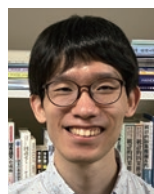
## 活動の成果

- ▶ 新有権者に対する投票啓発のあり方について、データに基づく政策提言を行った。
- ▶ 2026年以降に配布する新有権者メッセージカードについて、さらなる改良案を提案した。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶ 若者の低投票率は全国的な課題であるため、他の地域との連携も模索したい。
- ▶ 新有権者への投票啓発には高校や教育委員会との連携も効果的であると考えられる。

法学部 准教授 浅野 良成 Asano Takaaki



専門分野は比較政治学、政治行動論、政治意識論。有権者の政治意識がどのように形成されるのか、そして、民意がどのように政治過程に影響を及ぼすのかについて研究している。

